

地域復興支援

ふたばの交流・関係人口拡大を考える会

平成27年11月、サテライトが事務局となり双葉郡8町村実務当事者が一堂に会する機会として「ふたばの明日を考える会」を発足。定期的な情報交換・議論を行い、復興・発展について各町村の状況や考え方を共有することにより、連携、協力の円滑化に努力してきました。さらに、いままでの成果を引継ぎ、進化発展させるために、福島県ふたば復興事務所とサテライトが事務局となり、本年5月から「ふたばの交流・関係人口拡大を考える会」を新たに立ち上げ「ふたばの明日を考える会」と月1回交互に開催しています。双葉復興に欠かせない交流人口・関係人口の拡大をテーマに、8町村及び県の実務当事者で熱く議論を重ねています。今後も、福島大学の専門家・大学教員・学生と連携し、関係人口の拡大に尽力していきます。

教育環境の整備

子どもたちの食育推進にも取り組んでいます



相双地域の子どもたちへの支援として、サイエンス教室や体力向上を目的としたワークショップなどを企画・実施しています。また、子どもたちの肥満や食の細さなどの課題への取り組みとして昨年度食育ワークショップを開催、今年度は農と食をテーマに、なみえ創成小中学校でえごまと大豆の栽培を行っています。

食農学類生20名が、富岡町でのブドウ栽培作業に参加しました。



SHOKUNO WITH US
食農学類
だより

今回は、富岡町でワイン用ブドウの栽培活動を行っている“とみおかワインドメーヌ”様の圃場で実施しました。午前中は、会員の皆様と、ブドウ圃場の除草や支柱の誘引を行い、午後には、ボランティア組織である“とみおかワイン葡萄栽培クラブ”会員に対する対面形式でのヒアリングアンケートを実施しました。内容は、参加の経緯や未来像などについて、聞き出すものです。今後も継続定期に栽培活動に参加する予定で、継続した作業を学んでいきたいと考えています。

執筆者／食農学類 農業生産学コース准教授 高田 大輔 Takata Daisuke

サテライト職員 西 康一の 農業応援記 最終回

浪江町における土地利用型農業の紹介

浪江町では営農再開ビジョンを策定し、本格的な営農再開に向けた取り組みを進めています。写真は土地利用型農業の一つ、飼料用作物のデントコーン播種風景です。これからの浪江町における農業再開は、飼料用作物生産基地の下地づくりに取り組むことも選択肢の一つかと思います。



このコーナーは残念ながら今回で最終回となりますが、相双地域支援サテライトでは、これからも地域に根差した農業を応援していきます。

編集後記

相双地域支援サテライトは福島大学教員と連携して、相双被災地域の復興支援に取り組んでいます。今回は、今年度新設された食農学類の先生方、生徒のみなさんが、相双地域をフィールドに活躍している様子をご紹介します。リニューアルした中面では、今後も、12市町村のトピックを紹介していきますので、掲載してほしい原稿や写真がありましたら、どしどしお寄せください。



とんやの郷 ～どなたでも食品の放射能検査ができます～

たんばリンクの前に3年前に出来た「とんやの郷」は、中通りと浜通りを結ぶ114号を行きかう人の休息の場、また地域の方の憩いの場となっています。でも、それだけじゃないんです、「食品の放射能検査」ができる施設があり、川俣町民に限らず、誰でも、野菜や山菜、きのこ等の検査をしてもらうことができます。近くにいらした際には是非気軽にご活用ください。

伊達郡川俣町山木屋字日向40-1 ☎024(563)2021

〈営業時間〉10:00～16:10 〈定休日〉土・日・祝日・年末年始

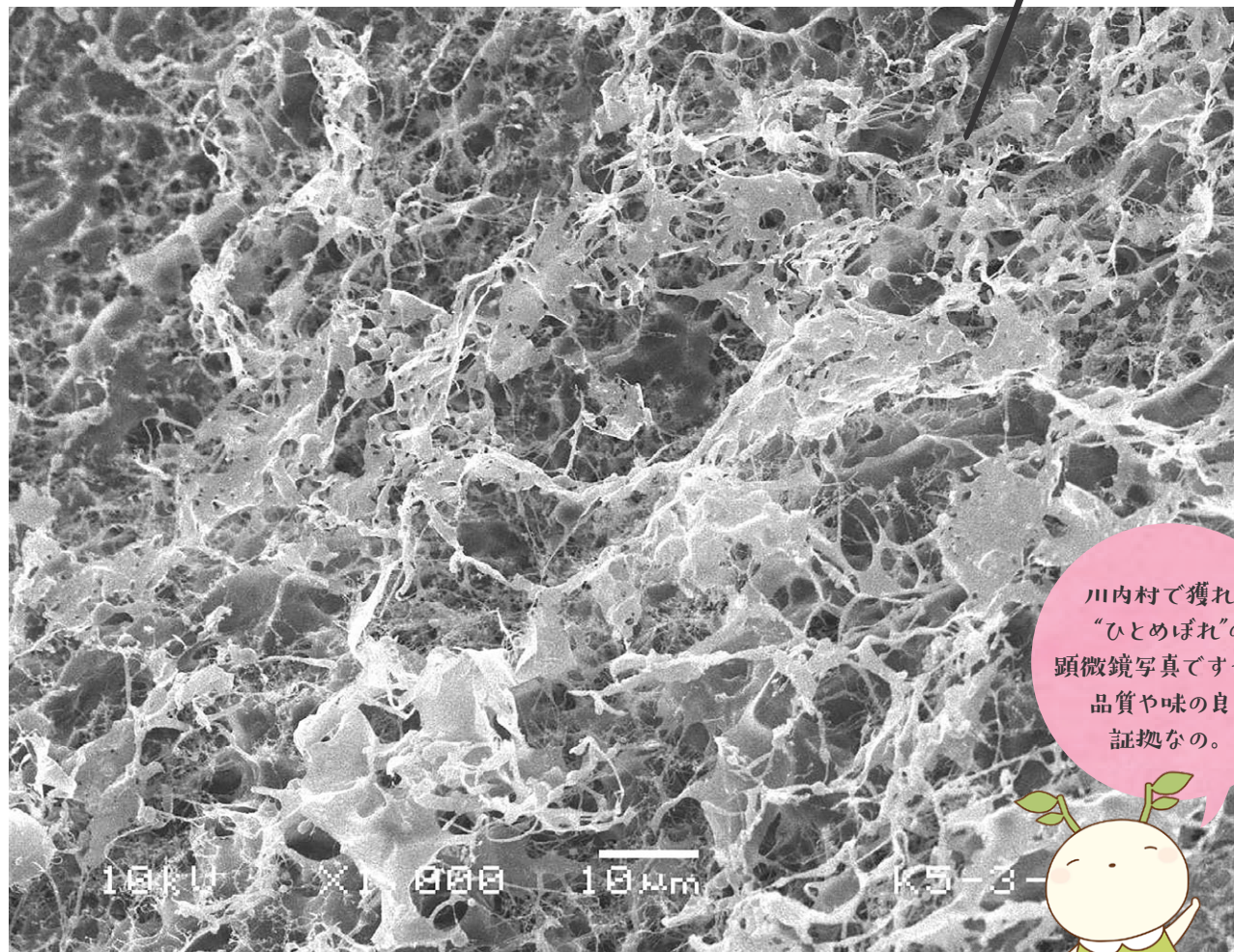
※食堂・小売店とは営業時間が異なります。

※検査する食品が30cm以上の場合は、カットさせていただきます。



22 2019. 夏号

「相双の風」は、相双地域の今と、福島大学うつくしまふくしま未来支援センター(FURE)相双地域支援サテライトの地域復興に向けた取り組みを紹介するニュースレターです。相双地域支援サテライトは被災地域と福島大学をつなぐ現地拠点として、地域再生を目指す支援活動を行っています。



川内村で獲れた
“ひとめぼれ”の
顕微鏡写真ですって！
品質や味の良い
証拠なの。



福島大学公式マスコット
キャラクター めばえちゃん

TOPICS | トピックス

浜通りの米は、高品質・良食味。
たくさん食べて、おなかいっぱい。

浜通りの米、おいしさはどうでしょうか？残念ながら震災・原発事故以前からよいイメージはあまりない上、民間の米調査会社の結果では低い評価となっています。浜通りの米、ほんとうに「おいしくない」評価になるのでしょうか？

そんなことはありません。高品質で良食味です。上の写真は、川内村で獲れた米(品種ひとめぼれ)を炊いて、表面を電子顕微鏡で観察したものです。糊の糸が伸びて繊維状になったり、網目状になったりしています。少し内部をのぞくと、スポンジの穴のような構造が広がっています。これらの構造は、やわらかさ、弾力、ねばり、なめらかさをもたらします。上の写真は一例で、ほかの地域の米も品質・食味ともに良好です。

浜通りの米、たくさん流通して食べてもらえるように、私たちも科学的な側面から応援したいと考えています。

執筆者／食農学類 農業生産学コース 教授 新田 洋司 Nitta Youji



～12市町村に、今ふく風をご紹介します～

広野町

Hirono town

広野町振興公社が
国産バナナ栽培に
チャレンジ！

▶ 於 ニッ沼総合公園
フラワーパーク



広野町のバナナ栽培が収穫に向けて順調に進んでいます。耐寒性を高めた国産の高級品種を導入しており、ミカンと共に北限の果物栽培となります。「氷河期の状態を耐え抜くバナナに震災後の福島の姿が重なりました。」そう話すのは広野町振興公社総務部長の幸森千尋さん。双葉地域の新たな特産品として、また広野町の観光農園としても期待されています。

櫛葉町

Naraha town

8/11日

「ほっつあ〜れ2019」
盆祭りが開催されます！



▶ 開催場所／櫛葉まなび館(櫛葉町下小堤麦入31)
▶ ライブ／15:10～18:20 盆踊り／18:30～20:00
(主催、問合せ)ほっつあ〜れDEいいんかい？！(080-4337-6549)
(協力)一般社団法人ならはみらい、櫛葉町商工会、櫛葉町観光協会

櫛葉町の若者たちが〔盆踊り〕+〔音楽ライブ〕を実施します。「ほっつあ〜れ」とは、「川に戻り産卵を終えた鮭の肉が痩せ、味が落ちること」。避難指示解除当時、これで「いいのか?」、「もっと元気に!」という決意と願いをのせ命名されました。

富岡町

Tomioka town

目標は、花のコンクール入賞！
花が繋げる交流の輪



今年3月に実施したハーバリウムワークショップの参加者で結成した「さくらハーバリウム会」、富岡在住・在勤者の官民交流会から発足した「チーム カサブランカ」と相双地域支援サテライトが連携し、町内の岡内東児童公園の花壇を綺麗にしています。毎月第一火曜日の9:00から花植えや手入れをしています。どなたでも大歓迎、花好きな方、ぜひご参加ください。



川内村

Kawauchi village

新たなむらづくり組織の
活動が開始！！
「かわうちラボ」



7月1日、新たな地域づくりに取り組む「一般社団法人かわうちラボ」が動き出しました。地域コミュニティの再構築、村のイベント事業、地域振興、関係人口の拡大を目指します。また、双葉郡内のまちづくり・むらづくり組織が連携する「双葉郡まちづくり会社等連絡会議」が5月から始動。かわうちラボにおいても被災地視察ツアー、移住定住の促進、空き家空き地情報の共有化などに連携し取り組んでいきます。

▶ 一般社団法人かわうちラボ／川内村大字上川内字町分282-6
▶ TEL.0240-23-7040 事務所は、役場前のたかやま倶楽部です。

大熊町

Okuma town

「ただいま
おおくままち」



町民らでつくった人文字
(おおくまコミュニティづくり
実行委員会提供)

大きな一歩です。5月7日、全町避難が8年続いた大熊町は大川原地区の新庁舎で本格的に業務を始めました。3月に開通した常磐道大熊インターチェンジから車で10分。新庁舎周辺は復興拠点として、福祉施設、交流・商業施設等がまとまって整備されます。6月からは災害公営住宅への入居がはじまり、明るい町民の声が戻ってきました。ふるさと再生に向けての期待が高まっています。

双葉町

Futaba town

がんばれ！
双葉中バドミントン部



筑波大が双葉中
バドミントン部を指導

相双地域支援サテライトのコーディネートにより、今年も大学トップクラスの筑波大バドミントン部が来校します。本物はシャトルの音が違います。昨年、部員たちは大いに刺激を受けました。浜通りからは、桃田選手をはじめ世界のトッププレーヤーがたくさん育っています。彼らを目標に、一層のレベルアップを目指しています。実力を試せる大会が楽しみです！

緊張感の中にも充実した時間が流れる(昨年の様子)

浪江町

Namie town

若い世代が
農業分野に参入



避難指示解除から約2年半、浪江町には日本で最も品質の良いトルコギキョウを栽培している花卉農家や、震災後新しい産業をと避難先から活動を始めたえごま農家の方々がいます。現在はそこに花卉栽培の独立を目指し研修に訪れる方など若い世代が集まっています。全国的に農業離れが進む中、明るく嬉しい流れが浪江町に出来ています。更に今後の活躍が楽しみです。

葛尾村

Katsurao village

新たな観光事業!!
「かつらおファーム」



地域住民が出資し設立された「(株)かつらおファーム」。約4ヘクタールに、ヤギなどのふれあい牧場、フラワーガーデン、直売所、ヤギの飼育舎を備えた施設を2020年5月開業予定です。現在、開業に先行して、ヤギ乳を使った石鯨の販売を行っています。また、牧場整備のボランティアとして、個人、団体、大学サークルなどの募集をしています。

▶ (株)かつらおファーム／葛尾村大字野川字湯殿71-2 TEL.0240-23-6614
▶ 「かつらおヤギ広場がらがらどん」 <https://www.katsuraoyagi.co.jp/>

飯舘村

litate village

農家レストラン
「気まぐれ茶屋ちえこ」
8年ぶりに再開



写真提供：飯舘村地域おこし協力隊

佐須地区にある農家レストランが8年ぶりに再開しました。店主・千栄子さんお手製家庭料理が定食として週替わりで提供されています。どぶろくの酒造家でもある千栄子さんは避難先でも製造を続けており、お店で購入することができます。料理はもちろん大満足、場所も店内も千栄子さんとっても素敵な空間です。

▶ 住所／飯舘村佐須200
▶ 営業／火・水・木
11時～15時まで

こちらからも
飯舘村の写真
が見られます



LVC_LITATE

田村市

Tamura city

食べて応援、
地域のつどいの場
「よりあい処 華」



毎年春に展示される「つるし雛」。住民が華に集まって制作したものです。

▶ 田村市都路町古道字新町67
▶ TEL.080-8203-8787

「帰還した住民が集う場所はないか」避難指示の解除後、地域の声から誕生した「よりあい処 華(はな)」。

南相馬市

Minamisoma city

7/6日

福島大学研究・地域連携成果
報告会が開催されました。



南相馬市民情情報交流センターにおいて、福島大学研究・地域連携成果報告会が開催されました。

基調講演として、演題「福島イノベーション・コースト構想」、成果として、「foRプロジェクトによる環境調査用水中ロボット開発」、「新たなモビリティサービスへの期待と福島での挑戦」、「南相馬市・福島県産米の品質と食味」、「福大生、南相馬に学ぶ：6年目を迎えた『むらの大学』」の4つの報告がありました。会場は満員、質疑応答も活発に行われ、盛会となりました。

川俣町

Kawamata town

8/15日

「山木屋夏祭り」開催！



▶ 開催場所／とんやの郷(川俣町山木屋字日向40-1)
▶ 16:30～パチコリンのコントステージ、17:00～山木屋太鼓によるオープニング、18:00～盆踊り、19:30～講師・神田陽子「本気の怪談」、20:30～線香花火大会

山木屋地区ですと開催してきた恒例の盆踊り、とんやの郷での開催は3回目。昔から盆踊りは、離れ離れでくらすみんなが顔を合わせる機会ですね。日中は、子ども用のプールを設置、射的や輪投げ、食べ物の屋台も出ますよ。大人も子どもも遊びに来てね！

(主催)川俣町・山木屋地区自治会・山木屋公民館 (問合せ)とんやの郷(024-563-2021)